

みたいと思います。

問 貯留雨水を乾燥時期に暗渠パイプに通すことで有効利用できるかと考える。そこで貯留施設と暗渠排水工事をセットで導入を検討し良い校庭を造ってはどうか。

教育次長 浸水対策を目的とした貯留施設ということ、平時には雨水をためないで準備しておくことが一般的です。乾燥時期の有効利用は、本来の貯留施設の目的からすれば、厳しいと考えます。

問 多目的グラウンドに導入してはどうか。

教育次長 浸水対策と雨水有効利用の双方の目的がうまく達成している例があれば研究していきます。

食育の啓発、啓蒙促進



佐藤 一郎

問 子どものころから食育をもっと取り入れ、農業体験を通じ、食べもの大切さ、おいしさを学ぶ事業と

して、小・中学校ではどのような取り組みを行っているのか。

市長 小学校では、主として教科指導や総合的な学習時間の中で行っています。中学校では、トマト、キ

ユウリ、イモの栽培を行い、食べ物の大切さやおいしさを学ぶ活動を取り入れたり、また、技術家庭科の授業の中で、育てたものを食べるという体験を通して食育を進めています。



生徒が給食前に献立説明

問 若いお母さん、児童を持つお母さんを対象にした食育をどのように行うのか。

健康福祉部長 今年度は、心をホッとさせる料理レシピ集を作成し、子どものころから食育、それから食文化の伝承などを伝えていき

たいと考えています。

推進事業の今後は

問 地区健康づくり推進事業は、今後どのように行うのか。

市長 健康づくり市民計画に掲げている取り組みを、各地で実践したいと考えています。

また、健康づくり市民計画推進委員会で具体的に検討をして推進します。

新型インフルエンザ対策



高橋 孝内

問 国内で感染者が確認されたため、市は対策本部を設置。市内全戸にチラシを配り、手洗いやうがいなどの励行と注意を呼びかけた。行動計画策定中とあるがどう。

市長 5月半ばに岩沼市として素案はできていたが、高病原性鳥インフルエンザの変容を想定し、強毒性の新型インフルエンザ対策を基本とした内容で作業

を進めていました。

しかし、今回は弱毒性だったため国の対応が変わりましたので、しっかりとした成案を早くまとめたい。

第二波対策はどうか

問 新型インフルエンザが進化して毒性の強い第二波の流行が秋冬に来るのではないかとわれているが、その対策はどうか。

市長 毒性の強い第二波が流行した場合は、国、県の強毒性ウイルスを前提とした行動計画に呼応した内容で対応しなければなりません。国、県から情報提供をいただいて、それらが十分行き渡るようにわれわれも努めていかなければなりません。

施設の休園や行事の中止とか、役所の業務にとって課題はありますが、できるだけ速やかに対応したい。まして時間が勝負です。しっかりと対応できるよ



議事堂入り口の消毒剤

不審者対策



後藤 一利

問 岩沼市内における不審者出没とその被害状況はどのように変化しているのか。

教育長 過去3年間のデータは、平成18年は24件、19年は15件、20年は17件で、発生は多少減少傾向にありますが、安心できない状況です。

不審者出没の対策を

問 不審者の出没や被害に変化が見られたとすれば、その新たなリスクに対応した取り組みが必要と思われる。特にまさかの場所、まさかの時間帯に起きた5月8日の玉浦小学校管内での不審者出没。

か。 今後の対策をどう考えるか。
教育長 最近のケースですが運動会の日に校内のトイレに不審者が出ました。幸いにも被害がなく、目を合わせただけで不審者は逃げ